

## 令和4年度（2022年度）第2回南大沢中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日 時	令和4年（2022年度）7月23日(土) 9：30～12：00
場 所	南大沢中学校3階 家庭科室
出席者	参加者：飯田、伊與田、柿島、木村、佐藤、瀬谷、高津、高橋、田中（茂）、田中（麻）、 廣田、福澤、宮武、 高齢者あんしん相談センター南大沢：青山 はちまるサポート由木：関根 第一層生活支援コーディネーター：今泉 八王子地域 PAL-ETTE：今居、上原 未来デザイン室：今川、野田、安齋、橋本 （株）エックス都市研究所：松本、小市、田中
見学者	高齢者福祉課：富山
配布資料	第2回南大沢中学校区地域づくり推進会議 資料1 南大沢中学校区ワークショップの結果（南大沢中学校区） 資料2 南大沢中学校区（南大沢地区）の地域づくりに関するアンケート調査結果 資料3 長房中学校区地域づくり推進計画抜粋 資料4 川口中学校区地域づくり推進計画抜粋 ワークシート「会議の進め方について考えよう」

### 1 開会

未来デザイン室より挨拶。

### 2 本日の議題確認

会議資料をもとに、本日の検討事項を確認した。

### 3 議題「令和4年度（2022年度）南大沢中学校区地域づくり推進会議についてみんなで考える」

#### （1）地域づくり推進計画策定に向けたスケジュール

会議資料をもとに、地域づくり推進会議（以下「推進会議」という。）の目標、地域づくり推進計画（以下「推進計画」という。）策定までのスケジュール、令和3年度（2021年度）までの取組内容について確認した。質疑の内容は、以下のとおり。

<質疑内容>

- ・ 今年の11月末で民生委員の任期を迎え、12月1日より新しい方が就任するが、その場合推進会議への参加はどうなるのか。  
⇒団体と相談させていただいた上で、退任後も参加いただくか、後任の方に参加いただくかを調整させていただきたい。方法として、両者に参加いただくことも可能としている。時期が近づいたら、改めて相談させていただく。（未来デザイン室）

## (2) 会議内容等の企画

資料をもとに、本日の検討内容について確認した。その後、2グループに分かれ、令和4年度(2022年度)に開催する第3回目から第6回目までの各回における議題や取り組み方、参加者の役割について検討した。各グループでの検討結果は、以下のとおり。

### <検討結果>

#### 1) Aグループ

##### ① 各回の議題について

- ・ 20年後の地域の将来ビジョンと言ってもピンとこない。2040年を見据えるにあたって、市はどう考えているのか。  
⇒2040年には、情報技術の発展やインフラの老朽化、大規模な自然災害、地球温暖化などの社会環境の変化や人口減少、人口構造の変化などが想定される。将来を見据える際には、長期的な視点で様々な課題解決に取り組んでいくことが必要となるが、実際の取組は、地域ごとにできることから少しずつ取り組んでいけば良いと考えている。ぜひ20年後を一緒に見据えて地域の未来を描いていければと考えている。(未来デザイン室)
- ⇒アクションプランを検討していく過程では、ヒアリングなどにより新たな情報に触れるため、それらを踏まえながら後半に将来ビジョンを修正しても良い。(エックス都市研究所)
- ・ 先ずはこれまでの推進会議やワークショップで出ている意見を再確認するところから始めてはどうか。
- ・ ワークショップで決めたありがたい姿は“つながる”を意識しすぎており、何のためにつながるか、改めて考える必要もある。
- ・ これまでの推進会議で出されている課題を、議事概要などから再整理して、将来ビジョンを検討する際の材料の1つにする。
- ・ 中学校区単位で議論をしているが、このままでは少子化により中学校の存続も危ぶまれるのではないか。子ども達が大人になり、一度南大沢を離れたとしても戻ってくる魅力のある環境づくりが急務である。地域で働ける場所があることも重要である。
- ・ 30・40代は地域活動に参加できる環境が少なく、まちづくりへの参加意欲があっても発揮できる機会がない。
- ・ 若者や子育て世代を南大沢に呼び込むといっても、空き物件がほとんどない状態である。これについては地域だけでは対処は難しいと思う。
- ・ 地域主体でできること、行政に支援いただくこと、色々な方法があって良い。アクションプランの検討とあわせて、実現に向けた役割分担も考えていくと良い。
- ・ 単独の地域で取り組んでも解決できない課題などへの対応は、他の地域と連携するような取組があっても良い。(未来デザイン室)

##### ②各回の取り組み方について

- ・ これまでも色々と課題を出し合っているが、参加している推進会議参加者が所属している団体の中で、課題になっていることを改めて確認することが必要ではないか。
- ・ 大学生や高校生など、これからのまちづくりを担う若者の意見を反映していきたい。
- ・ 若者や子育て世代の流入を促進するためには、住まいの供給が不可欠である。住宅施策の専門家や

賃貸住宅を供給している UR 都市機構、都住宅供給公社、多摩ニュータウン全体を所管している東京都にも今後の考え方を聞きたい。

- ・ 中学校区単位で計画を策定するので、中学校の先生方の意見も伺う機会があると良い。

### ③ 役割について

- ・ 20 年後の地域の将来ビジョンを考えるのは良いが、20 年後にまちづくりの主体となる若者や子育て世代が中心となって議論を進めるべきではないか。参加者を見直していくことも考えるべき。
- ・ 地域が主体的にまちづくりを進めるための試行的な取組として、次回から推進会議の司会や記録など、できるところから参加者が行うこととしたい。取組の中から課題も明らかにしていき、会議のあり方を模索していく。(エックス都市研究所)
- ・ 子育て世代が参加しやすいよう、一時保育ができる体制が整えられると良い。

## 2) Bグループ

### ①各回の議題について

- ・ 自分たちでどうにかできるレベルのことでなくても、議論するべきではないか。
- ・ 地域で主に課題となっていることをもとに、議論を進めてはどうか。主な内容としては、以下のとおり。なお、B グループについては、参加者から出てきた意見をグルーピングしてまとめた。

<主な内容>

～地域のつながり～

- ・ 災害等の有事の際に住民同士が協力して避難活動をするには、日ごろから住民同士がつながっていることが必要となる。また、同世代だけでなく多世代がつながることが必要で、多世代がつながることができる居場所づくりが必要である。

(例) 地域住民がくつろげるリビング、地域と大学がつながる場所、日中・放課後の子どもの居場所づくり、地域での防災訓練

- ・ 南大沢は住みやすいまちであることを発信してはどうか。
- ・ 情報発信をする際に、誰でもアクセスできる情報発信ツールが必要である。

～少子高齢化～

- ・ 健康寿命を延ばすためにも、高齢者の生きがいづくりが必要である。
- ・ 高齢者が暮らすにも、子育てするにもストレスフリーなまちであることが望ましい。
- ・ 南大沢に多くある団地の老朽化をどうするか。
- ・ 高齢化が進んでおり、現状のエレベーターが設置されていない団地等では住みづらくなる。そのため、ライフステージに応じて団地内での住み替えの促進が必要ではないか。
- ・ 移動困難者が利用しやすい交通手段を整備していく必要がある。

～場所づくり～

- ・ 少子化の影響で小学校や中学校の生徒数が減少しており、学校施設自体も老朽化している。そのため、義務教育学校などの再編の検討が必要ではないか。
- ・ 若い世代を南大沢に呼び込み、地域の活力を高めることが必要である。

## ②各回の取り組み方について

＜将来ビジョンの検討について＞

- ・ 20年後の想像が難しいため、まずは想像ができる5年先、10年先の未来から考えてはどうか。
- ・ 何もないところからビジョンを考えるのは難しいため、フィンランド等の幸福度の高い国の事例を参考に南大沢中学校区のありたい姿を考えてはどうか。
- ・ 他都市の事例に関して、詳しい専門家や知人等にオンラインでヒアリングしてはどうか。
- ・ 地域内での人口減少、少子高齢化の大きな流れを踏まえて議論してはどうか。
- ・ コロナ禍での生活等、時代の潮流も踏まえて考えてはどうか。
- ・ ビジョンから考えるのではなく、まずは課題や具体的な取組から考えた方が良いのではないかと。

＜アクションプランの検討について＞

- ・ 図書館など、地域住民が無料で集うことができる場があると、住民同士がつながりやすくなると考えており、大和市の文化創造拠点シリウスが良い事例と考える。そのため、推進会議の参加者で大和市文化創造拠点シリウスに視察に行ってみてはどうか。
- ・ 推進会議の参加者でヒアリングを実施し、参加者以外の声を聞くことが必要ではないか。具体的には、周辺地域の松木地区や別所地区、最近増えている外国人住民等のマイノリティの方々を想定される。

## ③役割について

- ・ 参加者以外の声を聞くため、ヒアリングなどを行う情報収集係が必要。
- ・ 将来を見据えた検討を進めるのであれば、20年後に大きく関わる世代が推進会議に参加することが必要ではないか。特に大学生や生徒会に参加してもらえると良い。

## 3) まとめ

AグループとBグループで検討した内容を発表し、意見交換をした結果は以下のとおり。  
これらの意見を踏まえ、事務局より次回以降の進め方について案を提示することとなった。

＜グループ間で議論されたことに関する質疑＞

- ・ コロナ禍でお祭りがなくなってしまったことについて、どのような意見があったのか。
- ・ 地域の課題として、地域のつながりが希薄になっていることがあがり、高齢者や多世代が集まれる場所や集まる機会自体がないという話になった。それは、お祭りが開催できていれば多世代が集まることのできる機会となっていたはずで、課題を象徴しているという話だった。

＜次回以降の進め方について＞

～将来ビジョンの検討について～

- ・ 将来ビジョンの検討では、各団体や地域コミュニティを問題として認識されていることを改めて共有する。
- ・ 考える際の柱となるのは、「地域のつながり」、「少子高齢化」、「居場所づくり」の3つ。
- ・ ただし、昨年度実施されたワークショップにおいて、2つのあるべき姿を既に出しており、そのあ

るべき姿の検討にあたっての課題や理想の暮らしの両方について意見を出しているため、既往の資料から抽出してほしい。

- ・ 既往の資料から抽出された意見を参考にすれば、新たな意見を出しやすいのではないか。
- ・ 20年先のあるべき姿を考える上での取り組み方として、5年、10年先と段階的に検討していく。
- ・ 2040年に地域の学校がなくならないということを確認したい。
- ・ 市民だけでは実現できないことについては、検討のなかで、市の目指す方向性も示していただけると良い。
- ・ 他自治体などの事例を参考にあるべき姿のイメージを膨らませる。
- ・ 一度将来ビジョンを設定したうえで、アクションプランを検討するなかで調整したり、事例調査や団体等へのヒアリングを行い、その結果を踏まえて、必要に応じて将来ビジョンを再考する。

～アクションプランの検討について～

- ・ 事例調査や他地区に対するヒアリングを行う。その際、事例を調査する人とヒアリングを企画する人を分けて行いたい。
- ・ ヒアリングでは、若者の意見を聞く必要があり、特に子育て世代の意見を把握したいが、どのようにアプローチするかが課題である。
- ・ 子育て支援のための場所や地域における子どもの居場所について、UR 都市機構や東京都住宅供給公社、東京都にヒアリングできる機会があると良い。

#### 4 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

- ・ バラエティクラブでは、7月25日（月）から1か月間「毎朝ごはんタイム」を開催することになった。そのチラシを団地の掲示板に掲載していただくと助かる。またスタッフも募集しており、興味があれば、ご参加いただきたい。
- ・ 青少対ではクリーンデーを令和5年（2023年）3月4日（土）に開催する。推進会議と日程が同じであるため、参加を検討いただきたい。
- ・ 地域カルテが団地の管理事務所には配架されていなかったため、確認してほしい。  
⇒地域カルテは、市の公共施設と市民センター、社会福祉協議会に配架しており、団地には配架していない。（未来デザイン室）
- ・ LinNa ヨガ・個室サロンカフェのオープン日が、9月11日（日）に決まった。営業時間は、土日は10:00～16:00を予定している。また、8月21日（日）にはハワイをテーマにしたプレオープンイベントを開催する。南大沢祭りが中止となったため、その代替りのイベントとなると良いと考えている。様々なイベントを企画しているため、是非、参加いただきたい。  
⇒チラシのデータをいただければ、推進会議の参加者に配信する。（未来デザイン室）
- ・ 「市長と語る」を8月21日（日）14:00～15:30にオンラインで開催する。テーマは、「私が行っている八王子の地域づくり」となっている。発言の申込の締め切りは過ぎているが、学生や市民が地域での活動を発表するため、是非、視聴いただきたい。（未来デザイン室）
- ・ 完成した地域カルテについて、市がLINEで情報発信したら、南大沢中学校校区のホームページへのアクセスが急増したことから、SNSの効果は高いことを実感した。広報紙やチラシなどの紙媒体だけでなくSNSを利用するなど、多様な手段を利用した情報発信を行うことは、多くの人の参加を促

すためには重要である。(未来デザイン室)

- ・ 新たな参加者に関する調整状況を未来デザイン室から報告。今年度の追加参加者になっていただけるか、南大沢三丁目商店街、東京都の職員、都立大の職員・学生、南大沢保育園の保護者、シニアクラブの南大沢袖の実会に声を掛けさせていただいている。(未来デザイン室)
- ・ 南大沢三丁目商店街会長、東京都の市街地整備部多摩ニュータウン課からは、推進会議の議題に応じてスポット的な参加であれば可能という話をいただいた。それ以外の団体等については、現在調整中であるため、次回調整結果を報告させていただく。(未来デザイン室)
- ・ ささえあい通信では、子どもの学習支援団体の特集し、インタビューしている。是非、ご覧いただければと思う。(はちまるサポート由木)
- ・ 地域のボランティア団体がつながりを再確認する企画として、交流の取組として南大沢の愛着などを川柳にして共有するイベントを開催する。チラシの裏面が応募用紙となっており、応募は生涯学習センターとはちまるサポート由木にある回収ボックスに投函いただく。応募のあった川柳は、生涯学習センターでまとめ、冊子にする。応募の締め切りは、9月15日(木)である。(高齢者あんしん相談センター)

## 5 閉会

次回の地域づくり推進会議の日程の確認と、第4回及び第6回の日程調整を行った。

- ・ 第3回 令和4年(2022年)9月17日(土) 9:30~12:00 南大沢中学校3階 家庭科室
  - ・ 第4回 令和4年(2022年)11月12日(土) 9:30~12:00 南大沢小学校
- ※場所については、学校と後日調整。
- ・ 第6回 令和6年(2023年)3月4日(土) 13:30~16:00 南大沢中学校3階 家庭科室

以上

## ～会議の進め方について考えよう～

	議題(例)	議題(案)	会議の取組み方(案)	役割(案)	
第3回	<p>～ビジョンの検討～</p> <p>①ビジョンのキーワードだし →2040年のあるべき姿をイメージしながら、中学校区別ワークショップで取りまとめた「地域のありたい姿」を具体的にしよう</p> <p>②ビジョンの柱を決める →出したキーワードを5～6分野に分類して、ビジョンを深掘しよう</p> <p>③ビジョンの決定 →各グループでまとめたビジョンを発表 →ビジョンの俳句を考えよう</p>	<p>&lt;方向性について&gt;</p> <p>ステップ1 確認する</p> <p>これまでやってきたことの見直し・ふりかえり</p> <p>これまで出された意見を再確認</p> <p>“ありたい姿”をベースに見直し</p> <p>子供がいない義務教育学校存続の危機</p> <p>高校生がいない</p> <p>中学校のあり方 少子化対策</p> <p>他地域との連携も</p> <p>紙、SNS… ⇒情報発信の方法</p> <p>子供も連れて来れる地域</p>	<p>ありたい姿 つながるの意識が強い</p> <p>何の為に つながるか、あらためて議論</p> <p>課題の共有</p> <p>WSの意見をビジョンへ繋げる</p> <p>まちの循環を進める →DX活用</p> <p>空き家がない</p> <p>若者が戻って来る魅力</p> <p>地域で働ける環境づくり</p> <p>30代・40代のパワーが発揮されていない</p>	<p>市の考えを知りたい</p> <p>第3回目に4分野の市の主要項目の目標や計画を説明</p> <p>各団体の課題を確認、会議で説明</p> <p>WSの意見 ↓ ビジョンへ</p> <p>中学校の先生の意見も知りたい</p> <p>テーマを決めて若い人に考えてもらう</p>	<p>&lt;参加者について&gt;</p> <p>参加者からテーマ別課題</p> <p>◎参加者の見直し</p> <p>この先を考え若い人を!</p> <p>人を育てる・未来につなげる</p> <p>子育て世帯も参加</p> <p>◎高校生 ◎大学生</p> <p>子供の意見を</p> <p>団体の意見を…</p> <p>・住宅の専門家</p> <p>・UR ・JRR ・都</p>
第4回	<p>～アクションプランの検討①～</p> <p>①アクションプランの検討 →ビジョンを実現するための取組は? →この取組は自分たちだけで今できる?できない? →できないことはどうする?どんな協力があると良い?</p>				
第5回	<p>～アクションプランの検討②～</p> <p>①アクションプランの検討(前回の続き) →2040年のあるべき姿の実現に向け、5年後までに取り組むべきことを検討</p>				
第6回	<p>～中間とりまとめ～</p> <p>①2040年のあるべき姿と、これを実現するアクションプランの案のとりまとめ →中間報告案としてとりまとめる</p>				

## ～会議の進め方について考えよう～

	議題(例)	議題(案)	会議の取組み方(案)	役割(案)	
第3回	<p>～ビジョンの検討～</p> <p>①ビジョンのキーワードだし →2040年のあるべき姿をイメージしながら、中学校区別ワークショップで取りまとめた「地域のありたい姿」を具体的にしよう</p> <p>②ビジョンの柱を決める →出したキーワードを5～6分野に分類して、ビジョンを深掘しよう</p> <p>③ビジョンの決定 →各グループでまとめたビジョンを発表 →ビジョンの俳句を考えよう</p>	<p>&lt;地域のつながり&gt;&lt;高齢化・少子化&gt; &lt;場所づくり&gt;</p> <p>多世代が つながる居 場所づくり</p> <p>多世代交 流の場</p> <p>住民のつ ながりを取 戻す</p> <p>高齢者の 生きがい 作り</p> <p>高齢者も 子育ても ストレスフ リーなまち</p> <p>義務教育、 学校など再 編検討</p> <p>小中学校 少子化 老朽化</p> <p>若い世代も 入ってきて、 循環する</p> <p>自分たちの レベルの議 題ではなくとも話し合うべきではないか</p>	<p>5年、10年 先などの想 像ができる 未来から考 えていく</p> <p>事例から考 える</p> <p>幸福度が高 い国・街の ケースを調 べてくる</p> <p>具体的な 取組から 考える</p> <p>専門家を 呼ぶ</p>	<p>時代潮流 から考える</p> <p>人口循環 大きな流れ も踏まえて 議論して は？</p> <p>コロナ禍 での生活</p> <p>大和市 図書館 シリウス 見学(視察)</p>	<p>ヒアリング 等の情報収 集係</p> <p>松木地区の ヒアリング</p> <p>マルシェを 開催し参加 者の声を ヒアリング</p> <p>20年後に大 きく関わる 世代を会議 に参加</p> <p>大学生生徒 会の参加</p> <p>(外口人住 民)増える マイノリテ ィにヒアリング</p>
第4回	<p>～アクションプランの検討①～</p> <p>①アクションプランの検討 →ビジョンを実現するための取組は？ →この取組は自分たちだけで今できる？できない？ →できないことはどうする？どんな協力があると良い？</p>	<p>地域にみんな ながくつろ げるリビング を</p> <p>地域と大学 がつながる 場所</p> <p>子どもの居 場所作り (日中・放課 後)</p> <p>住居の老朽 化をどうす る？</p> <p>高齢化 団地住み 替え促進</p> <p>移動困難者 が利用しや すい 交通アクセ スツール</p>	<p>具体的な 取組から 考える</p> <p>専門家を 呼ぶ</p>	<p>大和市 図書館 シリウス 見学(視察)</p>	<p>(外口人住 民)増える マイノリテ ィにヒアリング</p>
第5回	<p>～アクションプランの検討②～</p> <p>①アクションプランの検討(前回の続き) →2040年のあるべき姿の実現に向け、5年後までに取り組むべきことを検討</p>	<p>地域がつな がる防災訓 練</p> <p>住みやすさ の発信</p> <p>誰でもアク セスできる 情報発信 ツール</p>			
第6回	<p>～中間とりまとめ～</p> <p>①2040年のあるべき姿と、これを実現するアクションプランの案のとりまとめ →中間報告案としてとりまとめる</p>				



# ～会議の進め方について考えよう～

	議題(例)	議題(案)	会議の取組み方(案)	役割(案)
第3回	<p>～ビジョンの検討～</p> <p>①ビジョンのキーワードだし →2040年のあるべき姿をイメージしながら、中学校区別ワークショップで取りまとめた「地域のありたい姿」を具体的にしよう</p> <p>②ビジョンの柱を決める →出したキーワードを5～6分野に分類して、ビジョンを深掘しよう</p> <p>③ビジョンの決定 →各グループでまとめたビジョンを発表 →ビジョンの俳句を考えよう</p>	<p>☆現状認識(各団体、コミュニティでの問題認識)</p> <p>・つながり・高齢化・居場所</p> <p>☆昨年WSの見直し</p> <p>☆5年、10年…と段階的に検討 (学校はなくなることを確認する！！)</p>	<p>☆既住の資料から抽出</p> <p>☆事例・他地区ヒアリング</p> <p>☆市の目指す方向の提示</p>	<p>まずは案を事務局で</p> <p>市</p>
第4回	<p>～アクションプランの検討①～</p> <p>①アクションプランの検討 →ビジョンを実現するための取組は？ →この取組は自分たちだけで今できる？できない？ →できないことはどうする？どんな協力があると良い？</p>	<p>ローリングしながら検討</p>	<p>(次の世代)</p> <p>・若者・子育て世代</p> <p>・UR・JKK・都のヒアリング</p>	<p>まずは案を事務局で</p>
第5回	<p>～アクションプランの検討②～</p> <p>①アクションプランの検討(前回の続き) →2040年のあるべき姿の実現に向け、5年後までに取り組むべきことを検討</p>			
第6回	<p>～中間とりまとめ～</p> <p>①2040年のあるべき姿と、これを実現するアクションプランの案のとりまとめ →中間報告案としてとりまとめる</p>			